

# 石塚健先生への質問と先生からのご回答

シンポジウムで出されたご質問に対し、早速、石塚先生からご回答をいただきました。

- 初級者向けビジネス日本語教育はお考えですか。メリットがあると思いますか。
- JFスタンダードには「仕事と職業」というトピックがあり、ビジネス場面でも使うことができる簡単なcan-doも載せられています。ただ、使用する場面は限られているので、日本語だけで仕事をするというレベルではなく、基本的には英語などの多言語で仕事をするが、それほど複雑ではない言語活動であれば日本語でも理解できる程度だと思います。しかし、仕事をする人の中には必ずしも上級の能力が必要ではなく最低限のビジネス日本語を知っていれば、会社の業務には問題がないのでよいというニーズを持った学生もいるでしょうから、メリットはあると考えられます。
- 敬語の指導の中で一番力をいれているところは、どのようなことでしょうか。
- 韓国語と日本語は言語の構造が非常に似ているので辞書を見ながら直訳するだけで大丈夫な時も多くあります。一方でそのまま直訳してしまうと不自然な日本語になる時もありますから、そのような表現を中心に取り上げて問題を作ったりします。例えば、名刺を受け取る際の「ちょうだいいたします」も韓国語の表現をそのまま日本語にしまうと「よく受け取ります」となり、そのまま名刺交換の場面で使うと不自然になってしまいます。他にも「改めてご挨拶させていただきます」「申し遅れました」「名刺を切らせておりました」など、簡単そうでも直訳しにくい日本語らしい表現の勉強を学生さんたちも望んでいるようです。
- 「ビジネス日本語」の教科書で時々違和感を感じることがあります。（例：丁寧すぎる） 授業の中で、「実際はこのように言っている」と別の表現を提示することはありますか。（私は30年間ビジネスの世界にいました。）
- 私自身は企業でのビジネス経験がありませんので、自信を持って現場で使われていると断言することができません。学生さんの中には日本企業と取引を実際に行っている方もいらっしゃるのですが、時々「そんな表現は聞いたことがない」、「そこまで硬い表現は使わない」と言われることもあります。しかし、とりえず授業では基本的な表現を学んでいて実際には状況によって使わないこともあるので、基本を踏まえた上で現場で臨機応変に対応してくださいと伝えていきます。業種によっても使う日本語は異なると思いますので、授業では知っておけば応用が利くような基本的な内容を学習しているのだと説明して学生さんたちには理解してもらうようにしています。
- ビジネス会話と敬語以外に、日本社会でのマナーや上下関係などの文化的なところはどのように教えていらっしゃいますか。
- 名刺交換や席次などは単独のトピックとして授業で扱いますが、それ以外はダイアログの中にマナーや上下関係は含まれている場合が多いので、ダイアログを深く理解する活動の時に、学生に質問を投げかけたりして日本社会でのマナーや上下関係などを読み取るようにさせながら教えています。教師が一方的に情報を伝えてしまうとすぐ忘れてしまうので、学生さんたちに気付いてもらえるように促します。また、マナーや上下関係などは会話のクラスでは学生も気になっているトピックですので、フリートーキングやディスカッション、ディベートの時間に取り上げて理解を深めることもできると思います。
- 成績評価はどのようにされていますか。
- 2013年度は出席（20%）+中間&期末（40%+40%=80%）=100点で成績をつけました。授業ではビジネス日本語と敬語の二本柱で進めたのですが、韓国語を日本語に訳すという活動が多く含まれていたため、試験ではしっかりと授業で学習した内容が定着しているかを判断するために教科書と配布プリントを範囲として筆記試験を実施しました。ビジネス会話のテキストを使用していましたのでロールプレイを中心とした口述試験にするか迷いましたが、時間の都合もあり、2013年度は筆記試験にしました。

## 石塚健先生への質問と先生からのご回答

- 日本の日本語学校の韓国留学生は3～4年前から急減し、以前の3割程度になってしまった。日本語学科卒業生の就職率が良くないことも、その理由かと思われるが、他の学科と比較して、どのくらい低いのか。韓国では日本語の勉強や日本学に魅力がないのか。韓国における日本語の将来をどう思うか。
- 確かに韓国での日本語学習者数は減っていて、JLPTを受験する人も少なくなっているようです。政治的な問題、外交の問題もありますが、やはりまだ東日本大震災での原発事故が大きな影響を及ぼしていると思います。学生たちの日本に行きたいという気持ちは以前と変わらないと思いますが、学生さんたちの家族が反対するというケースが非常に多いようです。放射能問題については報道されていますが、誤解も多く東京より北は危険だという漠然としたイメージが定着してしまっています。そのため、本校の学生も交換留学生として日本に行く場合は関東より西にある協定校を希望する人が多いです。行き先としては特に九州が人気が高いようです。他の学科と比較して日本語科が高いか低いかどうかに関しては大学によって事情がことなるので何ともいえませんが、日本語に魅力がなくなったというよりは英語や資格の勉強、副専攻の勉強など、他の学習に時間を多く割かねばならず、日本語をじっくり勉強する余裕がないというのが現状です。また、以前は日本との交流や日本企業との取引をする場合、日本語能力は必須でしたが、近年では海外交流の場合、お互いの担当者が英語でやり取りをしても問題がないので、特に日本語ができなくても仕事に支障が少ないという傾向も影響しているのではないかと思います。現在の日韓関係は最悪だと言われていますが、韓国の人々にとって日本という国はいつでも関心の高い国です。文化、政治、経済、外交の変化によって、何かきっかけがあれば再び日本語学習熱が高まるということは十分に予想されます。
- なぜ授業終了後にこのようなことができるようになってほしいという目標が具体的にないのでしょうか (p.7)。
- まず、ビジネス日本語の学習範囲が非常に広いことがいえると思います。大学生対象の場合であれば、最低限のビジネス日本語や敬語を身につけさせるということで、ある程度はイメージできますが、ただその最低限のビジネス日本語能力とは何かを定義することが非常に難しいのが現状です。また、社会人対象のビジネス日本語では学習者のレベルだけではなく、ニーズが非常に多種多様なので、クラスとしての最終目標の設定がかなり困難であるといえます。
- p. 11 5.2.1 日本語を専門とする人以外でも日本語の上級者が多いとは、どのような現状でしょうか。(少し意外でした)
- 大学の授業でも日本語専攻ではない学生が上位の成績を取るということは珍しくありません。もちろん日本語専攻の学生のレベルは非常に高いですが、他学科の学生の中には非常にモチベーションが高い人も多いです。例えば私の知っている学生の中には水産関係の研究や建築、造船などを専攻している人がいますが、彼らがより専門的な内容を学習したり技術を学ぼうとする時は日本における研究を参考にしないと進まない場合が多くあるといえます。そのため動機付けが明確で高ですし、日本語専攻の授業ではかなりの努力をしないといい成績が取れないと自覚しているので、必死に勉強します。そのため韓国では日本語専攻ではなくても自分自身の専門を通して日本語が上手になったという人がかなりいます。
- 韓国人の間違いやすい日本語とは例えば何がありますか(苦手な発音以外でいくつか挙げてください)。
- 私(石塚)が個人的に韓国語母語話者の共通した誤用を集めてリストにしていますが、それを見ると、文法でいえば「助詞」(例: 電車を乗る(→電車に乗る))、条件節(韓国は"~면" 1つしかない)、「こ・そ・あ」(特に「それ」と「あれ」の区別)、イ形容詞の活用(例: 「低いなので」「いいだと思ふ」)、自動詞・他動詞、受身があります。表現でいえば、韓国式の表現(例: 「勉強を上手にする」(→勉強がよくできる)「学点」(→単位)「秘密番号」(→暗証番号))、語彙では外来語(例: オーストラリア(→オーストラリア)、パイル(→ファイル))があります。文字ではひらがな・カタカナの似ている文字(例: 「れ」と「ね」、「シ」と「ツ」)、漢字を旧漢字で書いてしまうなどがあります。その他にも細かく見ていくと多様な間違いがあります。私はそのリスト化したファイルを学生に配布し、作文の授業でピア・レスポンス(peer response)をする際に学生への文章作成指導の参考資料として使用しています。
- 日本人の「外国語音痴ぶり」はまだまだ克服されている様子を感じません。日本の教育機関の外国語教育に足りないものは何でしょうか。
- 質問なさった方は日本の英語教育のことをおっしゃっているのでしょうか?日本人が外国語音痴かどうかはよくわかりませんが、少なくとも日本人が韓国語を学習する時は他国の人よりも数段上達が早いと思います。言語構造が似ていますし、語彙が共通している者が多いですから。また、外国語の上達に関しては「どうしても使わなければいけない状況」にあるかも1つの要因になるかと思えます。韓国留学生も韓国国内で日本語を勉強している時は会話もままならないことが多いですが、留学やワーキングホリデーなどで日本で生活を始めると6ヶ月もしない間にペラペラになります。そういう学生に会って話を聞くと、学校生活やアルバイトなどで、日本語を覚えないと生きていけないと感じたため必死に学ぶようになったといえます。私自身も韓国語は本で勉強したり授業を受けたりしましたが、一番の上達のきっかけになったのは韓国人の妻と出会ったことでした。外国語の上達に関しては私は専門ではありませんが、「どうしても使わなくてはいけない状況」または「非常に高いモチベーション」があるかどうか、非常に大きな要因となるのではないかと思います。日本の教育機関の外国語教育に足りないものは何かに関しては、どの種類の機関についてのことなのかかわからないのでお答えしにくいところですが、もし具体的な問題の例を挙げていただければ再度ご回答できるかと思えます。